

比喩、芸術と理解

ジュデイス・ジョンソン

要約

比喩とは、ある物または考えを象徴し、他のものの代わりに使われる語または符号である。それによって、知識を共有することが可能になる。比喩はあらゆる文化にみられる。現代の西洋における思考方法は、ことばの比喩を用いることの多いプリント文化に基づくものである。プリント文化は、主に言葉と数字を見、数学や科学、文芸批評を尊重する。土着民族は、本質的に、口頭伝術を含む視覚文化によって知識を共有する。この文化のメンバーは、グラフィックアートや音楽、ダンスを尊重する。彼らは、視覚的パターン、形、色、及びムードを見る。夫々の文化は、大変異なる方法で知識を提供する。

多くの視覚的比喩は精神的である。それらは人間の本質に関する情報と、人々と自然が調和して完全な人間であるということは何を意味するのかということ伝える。「偉大な地球の木」と円は、多くの土着民族によって共有される精神的な比喩の例である。「イノクシャック」は、イヌイット族にとって重要な比喩である。それは、人間の感情と繋がりを表わしている。「イノクシャック」は、荒野の重要な場所に置かれ、旅人たちを最も安全な道に導いてくれる。

本発表において、人類が完全となるためには先ず、視覚の文化における知識の処理方法を理解し、正当化しなければならないということを提案する。私たちは、視覚文化についてより多くを学び、またいろいろな芸術形式(歌、踊り、絵画、詠唱、物語、写真、工芸など)を私たちの教育活動や、ルビ・インスティテュート・コース、子供クラス、お祈りの会、フィースト及び他の様々な集りの中に取り入れることによって、視覚によって知識を処理することを一層深く理解し、尊重することができる。